

和光市デジタルミュージアム紀要

第6号



目次

<論稿>

和光市における移動図書館の歩み

—インタビュー調査中間報告—

中岡貴裕・石川敬史 p 1

<資料紹介>

老母稻荷社について

安井 翠 p 13

<実績報告>

令和元（平成31）年度 和光市埋蔵文化財調査年報

江口やよい p 33

<資料紹介>

長嶋酒造について

矢崎康彦 p 51(26)



2020.3

和光市教育委員会

序文

和光市では郷土にゆかりのある貴重な文化財などを後世に伝え活用するために、これまで多くの方々から資料をご提供いただき、文化財保存庫に収蔵してまいりました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様方にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくため、平成 24 年 4 月 1 日から Web 上で「和光市デジタルミュージアム『れきたま』」の配信を開始しました。配信開始以来、年間約 20,000 件の閲覧をしていただいております。そして、『れきたま』の充実をさらに図るべく、和光市文化財保護行政の 1 年間の成果を取りまとめた「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、併せて Web 上での公開をしてから今年度で第 6 号となりました。

今回、和光市職員中岡貴裕氏と十文字学園女子大学の石川敬史氏から「和光市における移動図書館の歩み - インタビュー調査中間報告 - 」と題した貴重な成果をお寄せいただきました。また、和光市文化財保護委員の矢崎康彦氏からは、平成 26 年白子小学校に寄贈された資料の中から長嶋醸造日誌をまとめた成果をいただき、紀要内容の充実にご協力を賜りました。

さらに、お役目を終えることとなった老母稻荷社についての資料紹介や令和元（平成 31）年度の埋蔵文化財調査年報も併せて掲載いたしております。

有形・無形文化財、民俗的文化財など先人の残した文化財は、本市の貴重な財産であり、後世に残していく責任があります。また、このような文化財の蓄積は、当市の歴史や文化財を学び理解していただく上で有効なものであると考えています。

最後になりましたが、本紀要の刊行にあたりまして日ごろからご指導いただいております埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、和光市文化財保護委員会委員各位、また、公私ともご多用の中、たくさんのご教示・ご高配を賜りました関係者の皆様にご心より厚く御礼申し上げます、あいさついたします。

令和 2 年 3 月
和光市教育委員会
教育長 大久保昭男

